

をそくとくつゐにさきぬるむめの花たがうへをきしたねにかあるらんやがてその花をかざして御對面よろこび給へる、ひさしのだいきやうせさせ給ひけるにもよこざまにすへさせ給ひけるこそとしごろすこしかたはらいたくおぼされける御心とけて、いかにかたみにころゆるし給へりけん、御あはれびめでたけれ、

〔後拾遺和歌集^十哀傷〕小式部内侍なくなりて、むまごどもの侍けるをみてよみ侍ける、

いづみしきぶ

とゞめをきて誰を哀とおもふらんこはまさるらんこはまさりけり

〔詞花和歌集^九〕帥前内大臣伊藤原あかしに侍ける時、かなしみてやまひになりてよめる、

高内侍^{〇伊藤}

よるのつる都の内にこめられて子をこひつゝ、もなき明すかな、

〔今昔物語^{二十四}〕藤原實方朝臣於陸奥國讀和歌語第三十七

今昔藤原實方朝臣ト云フ人有ケリ、小一條ノ大將濟時ノ大納言ト云ケル人ノ子也、^{〇中}此ノ實方中將、愛シケル幼キ子ニオクレタリケル比、无限リ戀悲テ寢タリケル夜ノ夢ニ、其兒ノ見エタリケレバ、驚キ覺テ後此ナム、

ウタハ、ネノコノヨノユメノハカナキニサメヌヤガテノイノチトモガナトナム云テ、泣々戀ヒ悲ビケル、^{〇中}

大江匡衡妻赤染讀和歌語第五十一

今昔大江匡衡ガ妻ハ、赤染ノ時望ト云ケル人ノ娘也、其ノ腹ニ舉周ヲバ産マセタル也、其ノ舉周長ジテ文章ノ道ニ止事无カリケレバ、公ニ仕リテ途ニ和泉守ニ成ニケリ、其國ニ下ケルニ、母ノ赤染ヲモ具シテ行タリケルニ、舉周不思議身ニ病ヲ受テ、日來煩ケルニ、重ク成ニケレバ、母ノ赤